

第4回美祢市総合計画審議会 議事録

日時：令和元年8月5日（月）18：30～19：30

会場：美祢市民会館2階大会議室

	委員区分	団体名	氏名	出欠
1	1号委員 (市議会議員)	美祢市議会	エビスヤ 昭彦 戎屋 昭彦	
2		美祢市議会	タカギ ノリオ 高木 法生	
3		美祢市議会	タケオカ マサハル 竹岡 昌治	
4		美祢市議会	ナオノ トモカズ 猶野 智和	
5	2号委員 (公募委員)	公募	イノウエ トシオ 井上 敏雄	
6		公募	ウエヤマ マサオ 植山 正雄	
7		公募	カジオカ ヒデヨシ 梶岡 秀吉	
8		公募	ニシダ サキコ 西田 早紀子	欠席
9	3号委員 (学識経験者)	国立大学法人山口大学	タナカ カズヒロ 田中 和広	
10		成進高等学校	ノハラ マサノリ 野原 政典	
11		山口県立美祢青嶺高等学校	フジムラ シンイチロウ 藤村 慎一郎	
12		山口県議会	モリナカ カツヒコ 森中 克彦	欠席
13	4号委員 (関係団体)	山口県宇部県民局	イソムラ ショウジ 磯村 昭二	
14		一般社団法人 美祢青年会議所	ウチウミ ミツオ 内海 満夫	欠席
15		美祢市内郵便局	カトウ ミチコ 加藤 美智子	欠席
16		美祢市教育委員会	カネコ アケミ 金子 明美	
17		美祢市子ども・子育て会議	クラナガ ケンノウ 倉永 健造	
18		美祢市男女共同参画審議会	コバヤシ ノリコ 小林 法子	
19		美祢郡医師会	サカイ ヒサノリ 坂井 久憲	欠席
20		西京銀行	スエオカ タカオ 末岡 貴夫	
21		カルスト森林組合	タカス シュウゾウ 高須 修三	
22		山口県総合企画部中山間地域づくり推進課	イナガキ カイチ 稲垣 嘉一	
23		美祢市商工会	ナイトウ マサタ 内藤 正太	欠席
24		連合山口美祢地区会議	ナガイ マサオ 永井 政夫	欠席
25		美祢市定住促進協議会	ナガタニ アオゾラ 永谷 青空	欠席
26		美祢市社会福祉協議会	ハネ カズタカ 羽根 一孝	
27		美祢市医師会	ハラダ キクオ 原田 菊夫	
28		山口銀行	ヒエダ ユウジ 稗田 裕司	
29	山口新聞	ヒライワ カズヤ 平岩 和也		

	委員区分	団体名	氏名	出欠
30		美祢市体育協会	マセ クニオ 真瀬 邦夫	
31		美祢市小中学校PTA連合会	マツダ タツノブ 松田 龍信	
32		美祢市地域組織活動連絡協議会	ミシマ アケミ 三嶋 明美	欠席
33		一般社団法人 美祢市観光協会	ミズタニ マサヤ 水谷 雅哉	
34		山口美祢農業協同組合	ヤマモト ヨシツグ 山本 善継	欠席

<資料>

次第

『資料1』序論 6. まとめ（改定案）

『資料2』「将来像」基本理念」比較表

『資料3』基本構想 2. 新しいまちの目標（改訂案）

『資料4-1』第1回地域づくりワークショップ

『資料4-2』第2回地域づくりワークショップ

『資料4-3』第2回地域づくりワークショップ（赤郷地区）

真長田地区（ワークショップとりまとめ）

<その他資料>

委員名簿

1 開会

～資料の確認～

2 会長あいさつ

～田中会長ごあいさつ～

今日も暑い中ご苦勞さんでした。目の前がくらくらするくらい暑い。

この間それぞれの部会の方でつっこんだお話をさせていただいて、充実した議論があったと思っている。先日幹事会でも熱心な議論をいただき、だんだん内容が煮詰まってきたと思う。本日もいくつか議題がありますので、活発な意見をいただきたい。

事務局より：定足数の報告

会長：委員のみなさまの発言にあたっては挙手をして、氏名をした後にマイクを通じてお話をお願いしたい。

3 報告

(1) 第二次美祢市総合計画の序論におけるまとめの修正(案)について

事務局より：資料1について説明

会長：前回課題の整理について先ほどありましたようにSWOTだけではなく、課題は課題として整理をしましよとあった。大きくは美祢市の持続可能性を高めること、そのために①～⑤のそれぞれがあるということでした。これに対してご意見有ればお願いします。

委員：①～⑤は優先順位という形の数字か。教育がどこかにあれば良いなと感じた。

事務局：順番的にはこの順が優先として整理している。教育に関しては、持続可能性を高めることの中に少子化対策ということで、その原点となる若者定住対策として教育部分の関連はあると認識している。いろいろな部分を挙げると、さまざまに関係してくるので事務局の考えとしてはこういった形で示させていただいている。

委員：観光が1番ということですね。わかりました。

会長：前も感じたが弱みは本当に弱みなのか。逆にうまく使っていけば強みにもなるのでは。

事務局：この整理は弱みという言葉の意味に沿って整理している。弱みは強みに切り替わるというのも取組いかんによってありえることだと感じている。

4 議事

(1) 第二次美祢市総合計画の基本構想の一部改訂(案)について

①「将来像」と「基本理念」の改訂について

②基本目標の順について

事務局より：資料2、3について説明

会長：今のご説明は基本構想の中で将来像と基本理念を改訂すると、そして基本目標の並びを変更したという提案をいただいた。これについてご意見をお願いします。

委員：美祢市の中心っていうのは秋吉台なのか。今後10年間秋吉台を中心としてやっていくのか、根拠はあるのだと思うが、それを市民に説明して納得いただけるのか。市民がよしやろうということになるのか。

事務局：課題のまとめなどのなかにも出てくるが、持続可能なまちづくりの基となるのは人口減少対策である。人口ビジョンの改定案を示したが、45年後には8,500人の人口になってしまう。そんな時間が無く、一刻も早く取り掛からなければいけない中で、一番の強みを活かしてとしたときに秋吉台である。どこの市内、県外の方にも秋吉台のまちから来たと伝えればわかってもらえる。その秋吉台が一番の強みではなからうか。それを産業に結び付けていく。それが人口の減少を緩やかにするためのものであるという判断である。

会長：旧市町ではなく、全体が美祢市民だというつもりで基本理念を考えて欲しいと伝えたと

思うが、ここに秋吉台を持ってきたのはとても強い意志なのだと思う。私は評価しているが、こういったご意見は当然あると思う。もう少しご意見ないか。

委員：先ほど、観光を軸としたまちの発展が最重要としていたので、秋吉台が出てくるのは当然なんだと思ったが、最大の財産が秋吉台とおっしゃっていたことに関しては疑問がある。最大の財産は人だと思うので、そちらを大切にしてほしい。

事務局：人が宝なのは当然だと思っている。前回の提案が伝わりにくい、危機感がない、覚悟がないといったご意見もあったので、美祿市の一体感と強みを出すために秋吉台を出している。人については将来像で若者・女性・地域が輝くと表現させていただいており、これが人そのもの。こうした地域に住む人々がこのふるさとを愛し誇りに思うまちを作り上げたい。それを作るにあたって経済基盤がしっかりと整わないと若者、女性が住みつかない。という観点から産業面としても秋吉台を出させていただいている。

会長：確かに将来像の中には人が大事だと、そのために何が一番求められているかということで秋吉台が出てきている。基本理念や将来像は肝でするので、いろんな意見を出していただきたい。

委員：まちづくりとひとづくりの好循環というキーワードで山口県教育委員会も動いている。青嶺高校もそれで動いており、秋吉台が強みということでジオに関する人づくりもウエイトを置いているが、市の行政とひとづくりが連携しないと一体的に進まない所があり、今ある子ども達を美祿を誇れる人に育てないといけない。ひとづくりとまちづくりがどこでかみ合うのかを考えている。小中高でどういう子ども達になってほしいのかというのを市役所の方と一緒に、企業の方と一緒にになって共有していけるようなキーワードがあるといいなと思っている。

秋吉台については宝だと思っているし、アカデミックなところで体験型の観光が成功できるまちだと思っている。具体的になってくるといいなと思った。まちづくりとひとづくりがどうかみ合うのが課題だと思った。

会長：協働、協調、共有などがキーワード、これからはオール美祿でがんばっていかないといけないといった表現があると良いのではないかな。

委員：観光協会の立場から言えば、これだけ大きく観光にシフトしていただいているのはびっくりなのだが、美祿市が目指すべき形としてこれだけ観光が大きな比重になれるのか、その覚悟があるのかということは思う。

教育の中で、ひとづくりまちづくりのリンクにキーワードをというお話があったが、そのとおりだと思う。

2年前に来て、外からの目線で見ているが、特にお互い認め合うとか尊敬しあうといったキーワードが入ると良いのかと思っている。

事務局：いただいたオール美祿や尊敬、認め合うなどといった言葉が盛り込めるように検討したい。

委員：全部しないといけないことは明らかであり、特にいま何をしないといけないのか、市民がそれに向かっていける道筋、理念をつくるのが議論の中心だと思う。

秋吉台を含んで、それをシンボルとして捉えていけばと思うが、いつからと言われれば時間もかかるかと思う。意味とか思いは委員として理解はしているが、表現は再考していただければと思う。

会長：みんなで同じ方向を向いて行かないと効果が無い。非常に重要であり、オール美祿で行けるように言葉の問題で、ちょっとしたことで向きを違えないように表現をお願いしたい。

～承認～

(2) 公民館単位のまちづくり市民ワークショップの結果と反映について

事務局より：資料4について説明

会長：ご意見あるか。

委員：最初のスローガンはどのようにして出てきたのか。

事務局：資料4-2の最初の大嶺東分下村地区があるが、2回目の話し合っていたいただいた内容の中に、一番最後に目指すべきスローガンのご意見をいただいている。これを事務局として一本化して承認をいただく予定としている。

会長：各公民館単位でさまざまな取組を行っているが、市役所は関与せず、自分たちでされているものなのか。

事務局：この取組については、公民館を中心に行っているもの、市民が独自に行っているもの、市が関わっているものもあるし、お祭りのようなものもありさまざまである。

会長：それぞれの公民館が、住民が自立的に発案しながら動いていることは素晴らしいこと。これを中心に地域が活性化していくというのは非常に良い体制が出来ていると感じている。

事務局：この取組について全て網羅されているものではないが、ワークショップで出てきているのはこれらの取組をいかに維持していくのかを論点としている。地区のまちづくり協議会が組織されているものもあるし、公民館任せになっている地区もあり、そのあたりが若干地区毎のギャップとなっている。

副会長：厚保地区の左側、東厚保なのか、東厚小なのか、厚保小なのか。

事務局：東厚小でございます。

副会長：じゃあ“保”がいない。

会長：特に質問がないようなので、事務局の提案の通りとさせていただきます。

～承認～

5 閉会